

どを積極的に活用する姿勢があり、安全遵守の風土を感じる。

G社（2015.1.19）

会社コメント：リスクアセスメントの取り組みは行っていないが、安全操業への思いは高いと思っている。社員には、スキルのある、なるべく若手（外国人も含む）を揃えるようにしている。

気掛かりポイント：安全に関する書面的なものはない（ただし、朝礼などでその都度、予定されている作業における安全のポイントについて話をしている。例えば、冬場の乾燥時には火災について注意喚起をするなど）。安全の年間計画といったものについて書類などはなく、幹部の頭の中にあるという属人的なものである。

良好ポイント：異常処置基準を設け、正常でなくなったらすぐに上長に報告するようにしている。安全などに関する情報は、申し送り時、朝礼時などに連絡する。ユーザーからの査察では9割が品質関係であるが、査察の一環として安全関係の指摘もある。公的な資格などはスキルアップのために積極的に取得されている。

H社（2015.1.19）

会社コメント：特にリスクアセスメントに関してということだけでなく、安全一般への関心が低いと思っている。ISOを取得した経験があるのでリスクアセスメントの主旨は理解出来る。社員は職人集団と言った感じであり、特に定年などは設けていない。

気掛かりポイント：先代社長は、怪我をするのは本人の責任といった考え方であった。ただ現在の社長は、昨今ではそのような考え方が通用しないことと承知している。安全に関する年間計画などはないが、安全を無視している訳ではない。人手がないために安全にまで手が廻らないのが実情である。溶剤などの危険物も取り扱うが少量である。技術伝承と言うより、技術を持った熟練者（高齢；縁故）を採用している。ヒヤリハットなどは、従業員が隠すこともあるのであまり効果があるとは考えていない。

良好ポイント：規模が小さいのでコミュニケーションは良い。安全管理はトップダウンであるが、下からの意見は取り上げている。必要な公的な資格については、取得するようにしている。

I社（2015.2.6）

会社コメント：リスクアセスメントに関しての認知度は低く、身近にいる同業他社の8～9割はリスクアセスメントについて無知であると思っている。社員の安全意識は低く、ヘルメット着用についても「何故それが必要なのか？」といった程度の認識である。

気掛かりポイント：安全に関しては、場当たりの対応と承知している。緊急時の予算は対応する。人手が無いので一人の幹部が何から何まで行うのが実状である。

良好ポイント：エコ認定の取得を目指しているなかで、若手育成をしている。制度的には整備されていないものの、スキルア

ップや資格取得の講習などは積極的に行っている。緊急時対応の文書的なものはないが、火災、地震想定の訓練は行っている（地震時の停止箇所や避難場所などは明確にしている）。

総評

A社からF社までは企業規模が200から300人程度と比較的大きく、親会社からの指導や取引先との関係もあり、安全対策がかなり制度化されていた。回答者の職位・階層に依存して回答結果が異なるケースが見られたが、これは簡易リスク評価項目が主に「安全文化」に関する質問であったことが原因であろう。反面、各階層・職位間で評価ポイントに差が見られた項目が、改善すべき項目もしくは注意すべき項目であるという見方もできる。

一方、G社からI社は従業員数20名以下の小規模事業者であるが、リスクアセスメントの認知度が低く、その必要性も認識されていない。総じて安全対策はまだまだ浸透していない印象を受けた。慢性的に人手不足であり、安全にまでは手が廻らないのが実情であろう。組織が属人的であり、安全に関しても幹部の頭の中にマニュアルが（ノウハウ的に）存在している、というような状況である。

3.2.6 平成27年度の試行手順

調査に協力いただいた各企業について製造部門の三階層（例えば部長・中間管理職・一般職）それぞれに属する方から回答を得

ることとした。昨年度（平成26年度）6社を対象に同様のヒアリングを実施した際、そのうちの1社については所属の異なる2名（1人は製造部門、1人は研究開発部門）からの回答結果を得ることができた。所属の立場を反映してか2名の回答結果にはそれぞれ差異が見られた。この会社でのヒアリングから、社内での立場等の違いによって回答に違いが出る質問項目がその会社の安全上の弱点を反映している可能性があるとの仮説を得た。今回実施する簡易リスクアセスメントの試行とヒアリングはこの仮説について検討するためのデータを得ることを意図している。

階層別簡易リスクアセスメントの実施については、表14のBからFの5社に平成26年度に引き続いて協力を得ることができた。いずれも従業員数200～300人程度の企業規模であり、化学産業に属している。1社あたり3名（部長・中間管理職・一般職）から回答を得たので合計で15名分のデータが得られた。方法としては調査票を事前に送付し回答してもらっておき、その後企業を訪問して対面ヒアリングを実施するという手順をとった。調査は2015年11月に実施した。

簡易リスクアセスメント評価項目は昨年度（平成26年度）報告書に記載したものを基礎として評価項目文言および用語解説部分を修正したものをを用いた（表13）。

回答者には表13に対して以下のような考え方で答えるよう依頼した。例として小項目1.1.1をあげる。「1.1.1」は小項目の番

号であり、そのすぐ右側に書かれている「安全に関する社長の理念・方針」はこの小項目のタイトルに相当するものである。その下にカッコ（）で囲まれてスラッシュ（/）で区切られた2つの質問がある。各小項目への回答を考える際、まずこのカッコ内の2つの質問について各社の状況を考えてもらった。その上で、次のような基準で「×」なのか、「△」なのか、あるいは「○」なのかを判断して、該当する欄にチェックを入れるよう依頼した。

- 質問への答えが両方とも「いいえ」であるときは×（できていない）にチェック。
- どちらかの質問だけ「はい」のときは△（ややできています）にチェック。
- 質問への答えが両方とも「はい」であるときは○（できている）にチェック。

なお、質問は安全への取り組みができていない場合に○になるように作成してある。

3.2.7 平成27年度の試行結果

階層別簡易リスクアセスメントの結果を図19に示す（表15は図19の数値情報である）。既に述べたように、回答者には質問に対して×（できていない）、△（ややできています）、○（できている）を選択することにより答えるよう依頼した。結果を分析するにあたっては×を0点、△を5点、○を10点と換算した。図19の軸には0から10の数字が示されているが、これは各大項目に

についての「小項目ひとつあたりの平均評点」である。前述のように安全への取り組みができていない場合に○になるように質問を作ったので、安全への取り組みができていないほどこの換算による点数は高くなる。

この換算は結果を図的に表現することを目的として便宜上設けたものである。○（10点）は△（5点）よりも2倍優れているというような定量的な意味はない。その点にはくれぐれも注意が必要である。

図19からわかることは、この5社については、企業の管理側ほど「安全への取り組みができています」と答えているということである。大項目8（災害・事故時の行動要領）はすべての階層でほぼ同じ点数となったが、それ以外の大項目では一様に部長クラスが付けた点数>中間管理クラスが付けた点数>一般職クラスが付けた点数となっており、一般職クラス（すなわち現場）は管理側と比較して安全への取り組みが「できていない」と回答する傾向にあった。

部長クラスと一般職クラスで認識のギャップが特に大きかった大項目は「2. 積極関与」および「3. 資源管理」であった。表13に示したフォームに回答いただいた後に実施した対面ヒアリングの内容に基づき認識ギャップが生じる原因を推察すると下記のようなになる。すなわち「2. 積極関与」については、管理側は安全目標や行動計画を策定し実行していると認識している一方で、現場はそれを（極端に表現すれば）形式だけのものと見ている。あるいは、管理側の活動が的確なものであったとしても、それ

が現場に伝わっていないということである。

「3. 資源管理」については、管理側は現有の人材を前提とすれば最適な人材配置ができてっていると評価している一方で、現場は現有の人材ではそもそも人手が足りていないと評価していた。

3.2.8 平成 27 年度試行まとめ

以下に階層別簡易リスクアセスメントについてのまとめと今後の展開について述べる。企業内の階層間で認識にギャップがある項目がその企業の安全上の弱点を発見する糸口になるのではないかとの仮説で調査を実施した。結果として今回試行した質問項目は、階層間で回答にギャップが出るような質問になっていることを確認することができた。調査では企業の管理側ほど「安全への取り組みができています」と答える傾向が見られた。今回調査の直接の結果ではなくあくまで一般論に留まるものであるが、管理側は形式を整えただけで「安全対策を実行した」と評価しがちである一方、現場は対策が十分だとは必ずしも感じていない可能性が示唆された。ヒアリングを通じて明らかになったことは、このリスクアセスメント評価表に回答すること自体が社内コミュニケーションになり得るということである。質問項目について考えることをきっかけにして階層間で話し合い、安全活動の改善点や認識ギャップの存在の「気づき」に繋がることが期待できる。

今回の調査では「認識のギャップ」と「安全上の弱点」との関連は明らかになってい

ない。管理側が十分と判断している部分には資源や人員の追加が望めず、安全活動の推進も望めないことから、弱点として顕在化してくると予想される。

今後の課題としては評価結果と安全成績との関連の分析があげられる。評価結果と安全成績に関連があるかどうか調べ、関連があるならば、評価結果（特に×が付く小項目）を改善することが事故防止に繋がると予想される。また評価項目の重み付けという課題もある。すべての評価項目が同程度に事故と関連しているとは限らない。ある項目は事故防止に重要で、別の項目は相対的に重要ではないといったこともありうる。これらを明らかにすることが今後の課題として残っている。

3.2.9 簡易リスクアセスメント全国調査

簡易リスクアセスメントの結果と企業属生、特に労働災害発生数との関連を調べるために、表 13 に示した簡易リスクアセスメント評価項目および企業基本情報に関する質問項目を印刷し「回答ガイド」を添付した上で全国 5000 の中小企業（ただし製造業のみ）に郵送し回答および返送を依頼した。株式会社帝国データバンクが販売する企業概要データベース COSMOS2 に登録されている中小企業のうちの 5000 社を調査対象とした。

調査票は紙媒体で郵送した。2015 年 12 月初旬に発送を開始し、2016 年 1 月を回答期限とした。調査票を送付する際に切手貼付不要の返送用封筒を同封しておき、それ

を利用してもらった。事業所が複数ある企業については最も従業員数が多い事業所について回答をお願いした。郵送のみの調査にて階層別調査を実施するのは一定数以上の有効回答数を確保するという観点から適切ではないと考え、回答者は社長あるいは工場長など当該企業の安全に関する取り組みについてよく理解している立場の方に回答いただくよう依頼した。

簡易リスクアセスメント項目への回答を依頼した 5000 社のうち有効回答数は 505 であった（有効回答率 10.1%）。以下にデータ分析結果を整理する。本研究報告ではデータ整理の完了している 50 企業についての結果を示す。

結果（1）全体傾向

データ整理が完了した 50 の企業について大項目別に評点を整理したものが表 16 の（1）列である。数値は小項目ひとつあたりの平均評点である。

評点の値そのものには意味がないことから、大項目間での評点の相対的な差に注目する。評点が相対的に高いのは「6.危険認識」「7.相互理解」であった。評点が相対的に低いのは「9.教育」「8.災害・事故時の行動要領」「5.学習伝承」であった。

結果（2）企業規模別の結果

規模の大きな企業は、そうでない企業と比較して（あくまで相対的にはあるが）資金あるいは人員の観点から余裕があると推察される。したがって簡易リスクアセス

メント結果を企業規模別に集計した場合、規模の大きな企業の方が（労働安全衛生対策を実施しやすい環境にあることを反映して）評点が高くなることが予想される。

図 20 に結果をレーダーチャートで示した。また表 16 の（2）、（3）列にそれぞれ従業員数 30 人以上、30 人未満の企業の簡易リスクアセスメント評点を大項目別に示した。それぞれの企業数は 20 企業、30 企業であった。事前の予想のとおり、規模の大きな企業の評点が高かった。全ての大項目について従業員数 30 人以上の企業の評点が 30 人未満の企業の評点を上回っていた。

結果（3）労働災害との関係

評点が高い企業ほど労働災害発生が少ないという傾向があれば、本研究で開発した簡易リスクアセスメント項目は企業の安全度を測るツールとして機能すると期待してよい。この点について考察するために簡易リスクアセスメント結果と労働災害発生状況との関係を表 17 および図 21 に示した。過去 5 年間で労働災害（休業災害）の発生がないグループ（33 企業）と、1 件以上の労働災害があったグループ（17 企業）に分けた。

まず注意しなければならないことは、評点は現在時点のものである一方、労働災害発生数は過去 5 年間の実績だということである。リスクアセスメント実施後の労働災害実績を観察すれば、その労働災害防止効果を検討することが可能である。しかしな

がら今回は追跡調査ではないため、そのようなデータは得られない。したがって、表 17 および図 21 から検討することができることは「過去の労働災害の発生状況が簡易リスクアセスメント評点にどのように影響するか」ということである。

表 17 および図 21 から読み取れることは、全体の傾向として、過去 5 年間に労働災害を経験した企業の方が、労働災害を経験していない企業よりも、簡易リスクアセスメント評点が高くなる傾向にあることである。この結果を解釈するひとつの考え方は、休業災害を起こした企業はその再発防止のために安全対策を実施し、その結果として簡易リスクアセスメント評点が高くなった、というものである。労働災害が起っていない企業は災害防止の緊急度に関する認識が相対的に低くなり、安全防止の取り組みが進まず、結果として簡易リスクアセスメント評点が低くなる可能性がある。この解釈が正しいならば、簡易リスクアセスメント評点は安全対策の実際の実施状況を反映したものであることになる。労働災害防止対策が有効であれば一般的に労働災害発生数も低くなると考えられる。したがって予想としては、現在の簡易リスクアセスメント評点が高い企業は将来の労働災害発生数下がるという推測ができる。

一方でまったくことなる解釈も可能である。過去 5 年間で労働災害 1 件以上起っている企業は、本当は安全管理上の多くの問題点を抱えているにもかかわらずそれを自己認識していない（そして労働災害発生後

もその認識が改まらない）だけかもしれない。結果として、労働災害が発生していて、かつ、簡易リスクアセスメント評点が高いというデータが出たのかもしれない。この場合、労働災害が起きていない企業のグループは、逆に、安全管理上の問題点は相対的に少ないにも関わらず管理のあり方を厳しく事故評価しているために、データの見かけ上は簡易リスクアセスメント評点が低いにも関わらず労働災害が起きていない結果となっているだけなのかもしれない。

まとめ

今回の調査では、全体の傾向として、過去 5 年間に労働災害を経験した企業の方が、労働災害を経験していない企業よりも、簡易リスクアセスメント評点が高くなる傾向にあるとの結果が出た。休業災害を起こした企業はその再発防止のために安全対策を実施しその結果として簡易リスクアセスメント評点が高くなったのならば、予想としては現在の簡易リスクアセスメント評点が高い企業は将来の労働災害発生数が下がると推測することが可能である。ただし、過去 5 年間で労働災害 1 件以上起っている企業は、本当は安全管理上の多くの問題点を抱えているにもかかわらずそれを自己認識していない（そして労働災害発生後もその認識が改まらない）だけかもしれない。どちらの解釈が正しいのかを判断するためには、簡易リスクアセスメントを実施した後、その企業の労働災害発生実績を追跡調査することが必要となる。今回の研究ではそれを

実施することはできず、今後の課題として残っている。

4 全体の結論

中小規模事業場においてリスクアセスメントの普及が進まない要因について、従来の研究は「時間がない」、「知識ない」、「体勢が整っていない」といった項目をあげていた。本研究が実施したアンケート調査においても確かにそれらの項目が普及阻害要因のひとつとなっていることは伺える。しかしながら、リスクアセスメントを導入していない企業はそもそもそれが「必要ではない」と考えている傾向があることに本研究は注目した。リスクアセスメントが必要ではないと答える企業の多くはその理由として「労働災害が起きていないから」をあげている。しかしリスクアセスメントを導入している企業としていない企業の単位時間あたりの労働災害発生率を比較すると違いは見られない。リスクアセスメントを実施していない企業は従業員数の少ない企業が多い。これらの企業は従業員数が少ないために延べ労働時間が短くなり、結果として企業あたり年あたり労働災害発生「数」が少なくなっていることが考えられる（それが「労働災害が起きていないから」との自己認識につながる）。現実社会には従業員規模の小さな企業数およびそこで働く労働者数が多いため、まさにそれらの企業が「自社では労働災害が起きていない」と自己認識しているとすれば、日本全体としての労働災害発生数の大幅な減少は望みにくい。

これらの企業にリスクアセスメントを普及していくためには、まず「自社の労働環境はそれほど安全ではないかもしれない」と考えさせるきっかけがまず必要である。

とはいえ、簡易なリスクアセスメントを開発することも重要である。なぜなら、「労働災害が起きていない」したがって自社はある程度安全であると考える企業は前段落の議論によれば、従業員数の少ない小規模な企業である傾向があり、それらの企業にリスクアセスメントを普及するにはやはり簡易に実行できるものが望ましいからである。本研究では安全工学会保安力向上センターによって開発運営されている大規模企業向けの「保安力評価システム」を基礎に特別な知識がなくとも1時間程度の時間で実行できる簡易リスクアセスメント評価項目を開発した。複数の中小規模事業場の現場で試行し、安全に関する幅広い視点で包括的に評価できるシステムとして好評価を得た。また、現時点のリスクアセスメント結果と、過去時点の労働災害発生実績を比較することにより簡易リスクアセスメントの結果が企業の安全レベルの現状を反映していると推察された。ただし、最後の点を検証するには簡易リスクアセスメントを実施した後、その企業の労働災害発生実績を追跡調査することが必要となる。今回の研究ではそれを実施することはできず、今後の課題として残っている。

5 健康危険情報

なし

6 研究発表

牧野良次，廃棄物事故に関する事故リスクの定量化，安全工学シンポジウム2013，2013/07/04.

牧野良次，松倉邦夫，和田有司，中小規模事業場向けのリスクアセスメント手法の開発，第46回安全工学研究発表会，2013/11/28.

牧野良次，松倉邦夫，和田有司，茨城県の中小規模事業場を対象としたリスクアセスメント普及状況の調査，安全工学シンポジウム2014，2014/07/11.

牧野良次，松倉邦夫，和田有司，中小規模事業場向けリスクアセスメント手法の試行結果について，第47回安全工学研究発表会，2014/12/4.

牧野良次，松倉邦夫，和田有司，全国の中小規模事業場を対象としたリスクアセスメント普及状況の調査，安全工学シンポジウム2015，2015/07/02.

牧野良次，松倉邦夫，和田有司，中小企業における労働安全衛生に関する階層別ヒアリングについて，第48回安全工学研究発表会，2014/12/03.

7 知的財産の出願・登録状況

なし

参考文献

菊池（2004）中小企業と産業保険，日職災医誌，52，149-152.

保安力向上センター（2013）保安力向上センターと保安力評価の概要，
http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/hoan/pdf/004_s01_00.pdf
（2014/05/21 アクセス）

若倉正英（2012）保安力評価システムの構築と推進，安全工学，51（6），350-354.

表 1 リスクアセスメントに関する質問への回答結果（企業の概要）

有効440社(全707件中)	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中
企業数	348	20	38	34
企業数(%)	79%	5%	9%	8%
従業員数(人):平均	19.3	25.4	74.3	97.2
年商(千円):平均	400,505	333,134	2,197,973	2,502,134
営業利益(千円):平均	23,844	6,016	169,764	109,304
1人あたりの年商(千円)	22,643.5	22,401.2	32,278.5	26,024.3
1人あたりの営業利益(千円)	2,034.1	499.1	2,173.7	963.2

有効440社(全707件中)	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中
企業数	368		72	
企業数(%)	83.6%		16.4%	
従業員数(人):平均	19.9		82.3	
年商(千円):平均	397,335		2,347,714	
営業利益(千円):平均	23,061		138,526	
1人あたりの年商(千円)	22,632		29,200	
1人あたりの営業利益(千円)	1,967		1,548	

表 2 リスクアセスメントに関する質問への回答結果 1-1（実数）

440社		RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
企業数		348	20	38	34	440
努力義務	知らなかった	224	5	3	2	234
	知っている	124	15	35	32	206
	N/A	0	0	0	0	0
リスク評価	聞いたことがない	173	2	1	0	176
	よく知らない	137	11	6	5	159
	おおよそ知っている	34	7	20	9	70
	よく知っている	2	0	11	20	33
	N/A	2	0	0	0	2
セミナー	参加あり	26	7	16	25	74
	参加なし	313	11	21	9	354
	N/A	9	2	1	0	12

セミナー参加理由	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
リスクアセスメントを実施しなかったから	1	1	5	8	15
リスクアセスメントの効果が期待できなかったから	3	0	5	2	10
リスクアセスメントをもっと知りたかったから	13	1	7	8	29
事故を減らしたかったから	2	1	5	5	13
安全衛生対策に不安があったから	4	0	3	3	10
必要を感じたから	4	1	8	8	21
親会社・本社・上長(経営者)からの指示	5	4	3	12	24

セミナー感想	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
リスクアセスメントについてよく理解できた	17	4	16	25	62
知りたかったことを知ることができた	19	5	17	23	64
すぐにリスクアセスメントを導入できると思った	2	3	12	18	35
自事業場でもリスクアセスメントを導入しようと思った	13	6	16	24	59
リスクアセスメントの導入は無理だと思った	6	2	1	0	9

セミナー不参加理由	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
セミナーがあると知らない・聞いた事がない	238	6	7	3	254
開催地が遠方だった	9	0	0	3	12
日程が合わなかった	34	3	7	2	46
内容に対し参加費用が高額だった	6	0	1	1	8
上長(経営者)の理解が得られなかった	0	0	1	0	1
特に必要を感じなかった	74	4	5	4	87
参加する意義が全く感じられなかった	6	0	0	0	6

安全衛生対策の必要性	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
必要だと思わない	30	0	0	0	30
必要だと思う	251	20	38	32	341
分からない	66	0	0	0	66
N/A	1	0	0	2	3

安全衛生対策が不要理由	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
労働災害があまり起きていないから	23	0	0	0	23
安全衛生対策を行っても効果があると思わないから	4	0	0	0	4

RA効果への期待	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
とても効果があると思う(導入すると事故がかなり減る)	50	3	12	13	78
まあまあ効果があると思う(導入すると事故が多少減る)	201	13	25	20	259
あまり効果がないと思う(導入してもあまり事故が減らない)	58	2	1	0	61
全く効果がないと思う	30	1	0	0	31
N/A	9	1	0	1	11

RA中断理由	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
実施途中で人員が割り当てられなくなった出来事が起きたから		7			7
実施途中で時間が割り当てられなくなった出来事が起きたから		9			9
実施途中で予算が割り当てられなくなった出来事が起きたから		3			3
実施途中であまり効果がないと思ったから中止した		3			3
当初の予想より時間がかかることがわかったから中止した		6			6
当初の予想より費用がかかることがわかったから中止した		2			2
当初の予想より実施方法や手順が難しいと思ったので中止した		7			7

表 3 リスクアセスメントに関する質問への回答結果 1-2（実数）

RA以外の安全衛生対策	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
なし	227	10	6	4	247
予定あり	6	2	2	0	10
実施あり	89	8	26	28	151
N/A	26	0	4	2	32

安全衛生対策をしていない理由	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
リスクアセスメントを実施しているから	3	1	4	2	10
行政からの要請・指示がないから	24	1	0	0	25
親会社・本社・上長(経営者)からの要請・指示がないから	10	1	0	0	11
労働災害があまり起きていないから	159	4	3	1	167
具体的に何を実施すればよいかわからないから	114	4	1	2	121
実施したいことがあるが人員・時間を割けないから	25	5	0	0	30
実施したいことがあるが費用が捻出できないから	19	4	0	1	24

RA非実施の理由	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
リスクアセスメントがどんなものなのかよくわからない	200	4			204
難しそうな気がする	72	5			77
具体的な実施方法が分からない	156	9			165
上長(経営者)の理解が得られない	1	1			2
組織内での合意・協力が得られない	6	2			8
導入に必要な資料が入手できない	44	3			47
同業他社の好事例等の情報が入手できない	36	4			40
体制が整備できない	66	7			73
知識のある人材が用意できない	58	9			67
導入に必要な時間が確保できない	77	8			85
導入に必要な予算が確保できない	57	5			62
導入しても効果があまりないと思う	42	2			44
労働災害があまり発生してないので必要ない	138	6			144
法令義務の範囲内で対策は十分なので必要ない	54	2			56
既存対策で十分なので必要ない	66	2			68
親会社・本社からの要請・指示がない	11	0			11
上長(経営者)からの要請・指示がない	9	1			10
行政からの要請・指示がない	31	2			33
その他	20	1			21

表 4 リスクアセスメントに関する質問への回答結果 1-3（実数）

RAを知ったきっかけ	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
行政からの通知			13	15	28
親会社・本社からの通知			6	9	15
同業他社の通知			0	2	2
業種協会・団体等からの通知			6	4	10
上長(経営者)からの通知			3	1	4
リスクアセスメント関連のセミナーへの参加			5	2	7
業界紙・新聞・テレビ等を読んで			2	2	4
インターネットで情報を見て			0	0	0
その他			5	1	6

RA後の労災減少	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
かなり減った			3	11	14
まあまあ減った			16	10	26
あまり減らなかった			3	6	9
全く減らなかった			2	0	2
分からない			12	7	19
N/A			2	0	2

RA指針	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
指針通りに実施していない			8	5	13
指針通りに実施した			27	29	56
N/A			3	0	3

RA実施理由	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
行政からの要請・指示があった			16	11	27
所属団体からの要請・指示があった			7	1	8
親会社・本社からの要請・指示があった			8	12	20
上長(経営者)からの要請・指示があった			9	3	12
リスクアセスメントが努力義務事項だから			11	9	20
導入により労働災害が減ると思ったから			15	14	29
既存の安全衛生対策だけでは不十分だと思ったから			7	10	17
労働災害が発生していたから			4	3	7
同業他社による好事例があったから			0	2	2
その他			5	0	5

RA実施理由(最大)	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
行政からの要請・指示があった			4	5	9
所属団体からの要請・指示があった			1	0	1
親会社・本社からの要請・指示があった			4	7	11
上長(経営者)からの要請・指示があった			2	0	2
リスクアセスメントが努力義務事項だから			1	4	5
導入により労働災害が減ると思ったから			5	4	9
既存の安全衛生対策だけでは不十分だと思ったから			0	1	1
労働災害が発生していたから			1	0	1
同業他社による好事例があったから			0	0	0
その他			1	0	1
N/A			19	13	32

表 5 リスクアセスメントに関する質問への回答結果 1・4（実数）

RA大変だったこと	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
必要な実施体制の整備・維持			19	17	36
教育研修の実施			15	17	32
リスクアセスメント実施要領の作成			10	12	22
リスクアセスメント対象の選定			5	4	9
リスクアセスメント対象の情報の入手			6	3	9
危険性又は有害性の特定			9	9	18
リスクの見積もり			13	11	24
リスクの優先度の設定(評価)			9	5	14
リスク低減措置の検討			9	12	21
リスク低減措置の実施			9	18	27
記録の作成・保存			4	5	9
予算の獲得・維持			6	7	13
リスクアセスメントの実施にかかる時間の確保			14	10	24
会社組織内での合意			2	4	6
経営トップの理解を得ること			2	2	4
安全衛生スタッフの能力向上			7	7	14
ライン管理監督者の協力を得ること			4	6	10
その他			3	0	3

RA大変だったこと(最大)	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
必要な実施体制の整備・維持			5	6	11
教育研修の実施			3	2	5
リスクアセスメント実施要領の作成			2	2	4
リスクアセスメント対象の選定			0	0	0
リスクアセスメント対象の情報の入手			0	0	0
危険性又は有害性の特定			0	1	1
リスクの見積もり			2	1	3
リスクの優先度の設定(評価)			1	0	1
リスク低減措置の検討			2	3	5
リスク低減措置の実施			1	6	7
記録の作成・保存			1	0	1
予算の獲得・維持			0	1	1
リスクアセスメントの実施にかかる時間の確保			5	2	7
会社組織内での合意			0	0	0
経営トップの理解を得ること			0	0	0
安全衛生スタッフの能力向上			3	0	3
ライン管理監督者の協力を得ること			0	2	2
その他			0	0	0
N/A			13	8	21

表 6 リスクアセスメントに関する質問への回答結果 2-1（割合）

		440社 企業数	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
努力義務	知らなかった		79.1%	4.5%	8.6%	7.7%	100.0%
	知っている		64.4%	25.0%	7.9%	5.9%	53.2%
	N/A		35.6%	75.0%	92.1%	94.1%	46.8%
リスク評価	聞いたことがない		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	よく知らない		49.7%	10.0%	2.6%	0.0%	40.0%
	おおよそ知っている		39.4%	55.0%	15.8%	14.7%	36.1%
	よく知っている		9.8%	35.0%	52.6%	26.5%	15.9%
	N/A		0.6%	0.0%	28.9%	58.8%	7.5%
セミナー	参加あり		0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
	参加なし		7.5%	35.0%	42.1%	73.5%	16.8%
	N/A		89.9%	55.0%	55.3%	26.5%	80.5%
セミナー参加理由			2.6%	10.0%	2.6%	0.0%	2.7%
			RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
リスクアセスメントを実施しなかったから			3.8%	14.3%	31.3%	32.0%	20.3%
リスクアセスメントの効果が期待できなかったから			11.5%	0.0%	31.3%	8.0%	13.5%
リスクアセスメントをもっと知りたかったから			50.0%	14.3%	43.8%	32.0%	39.2%
事故を減らしたかったから			7.7%	14.3%	31.3%	20.0%	17.6%
安全衛生対策に不安があったから			15.4%	0.0%	18.8%	12.0%	13.5%
必要を感じたから			15.4%	14.3%	50.0%	32.0%	28.4%
親会社・本社・上長(経営者)からの指示			19.2%	57.1%	18.8%	48.0%	32.4%
セミナー感想			RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
リスクアセスメントについてよく理解できた			65.4%	57.1%	100.0%	100.0%	83.8%
知りたかったことを知ることができた			73.1%	71.4%	106.3%	92.0%	86.5%
すぐにリスクアセスメントを導入できると思った			7.7%	42.9%	75.0%	72.0%	47.3%
自事業場でもリスクアセスメントを導入しようと思った			50.0%	85.7%	100.0%	96.0%	79.7%
リスクアセスメントの導入は無理だと思った			23.1%	28.6%	6.3%	0.0%	12.2%
セミナー不参加理由			RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
セミナーがあると知らない・聞いた事がない			76.0%	54.5%	33.3%	33.3%	71.8%
開催地が遠方だった			2.9%	0.0%	0.0%	33.3%	3.4%
日程が合わなかった			10.9%	27.3%	33.3%	22.2%	13.0%
内容に対し参加費用が高額だった			1.9%	0.0%	4.8%	11.1%	2.3%
上長(経営者)の理解が得られなかった			0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	0.3%
特に必要を感じなかった			23.6%	36.4%	23.8%	44.4%	24.6%
参加する意義が全く感じられなかった			1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%
安全衛生対策の必要性			RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
必要だと思わない			8.6%	0.0%	0.0%	0.0%	6.8%
必要だと思う			72.1%	100.0%	100.0%	94.1%	77.5%
分からない			19.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.0%
N/A			0.3%	0.0%	0.0%	5.9%	0.7%
RA効果への期待			RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
とても効果があると思う(導入すると事故がかなり減る)			14.4%	15.0%	31.6%	38.2%	17.7%
まあまあ効果があると思う(導入すると事故が多少減る)			57.8%	65.0%	65.8%	58.8%	58.9%
あまり効果がないと思う(導入してもあまり事故が減らない)			16.7%	10.0%	2.6%	0.0%	13.9%
全く効果がないと思う			8.6%	5.0%	0.0%	0.0%	7.0%
N/A			2.6%	5.0%	0.0%	2.9%	2.5%
RA中断理由			RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
実施途中で人員が割り当てられなくなった出来事が起きたから			0.0%	35.0%	0.0%	0.0%	0.0%
実施途中で時間が割り当てられなくなった出来事が起きたから			0.0%	45.0%	0.0%	0.0%	0.0%
実施途中で予算が割り当てられなくなった出来事が起きたから			0.0%	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%
実施途中であまり効果がないと思ったから中止した			0.0%	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%
当初の予想より時間がかかることがわかったから中止した			0.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%
当初の予想より費用がかかることがわかったから中止した			0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
当初の予想より実施方法や手順が難しいと思ったので中止した			0.0%	35.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表 7 リスクアセスメントに関する質問への回答結果 2-2（割合）

RA以外の安全衛生対策	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
なし	65.2%	50.0%	15.8%	11.8%	56.1%
予定あり	1.7%	10.0%	5.3%	0.0%	2.3%
実施あり	25.6%	40.0%	68.4%	82.4%	34.3%
N/A	7.5%	0.0%	10.5%	5.9%	7.3%

安全衛生対策をしていない理由	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
リスクアセスメントを実施しているから	1.3%	10.0%	66.7%	50.0%	4.0%
行政からの要請・指示がないから	10.6%	10.0%	0.0%	0.0%	10.1%
親会社・本社・上長(経営者)からの要請・指示がないから	4.4%	10.0%	0.0%	0.0%	4.5%
労働災害があまり起きていないから	70.0%	40.0%	50.0%	25.0%	67.6%
具体的に何を実施すればよいかわからないから	50.2%	40.0%	16.7%	50.0%	49.0%
実施したいことがあるが人員・時間を割けないから	11.0%	50.0%	0.0%	0.0%	12.1%
実施したいことがあるが費用が捻出できないから	8.4%	40.0%	0.0%	25.0%	9.7%

RA非実施の理由	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
リスクアセスメントがどんなものなのかよくわからない	57.5%	20.0%			55.4%
難しそうに気がする	20.7%	25.0%			20.9%
具体的な実施方法が分からない	44.8%	45.0%			44.8%
上長(経営者)の理解が得られない	0.3%	5.0%			0.5%
組織内での合意・協力が得られない	1.7%	10.0%			2.2%
導入に必要な資料が入手できない	12.6%	15.0%			12.8%
同業他社の好事例等の情報が入手できない	10.3%	20.0%			10.9%
体制が整備できない	19.0%	35.0%			19.8%
知識のある人材が用意できない	16.7%	45.0%			18.2%
導入に必要な時間が確保できない	22.1%	40.0%			23.1%
導入に必要な予算が確保できない	16.4%	25.0%			16.8%
導入しても効果があまりないと思う	12.1%	10.0%			12.0%
労働災害があまり発生してないので必要ない	39.7%	30.0%			39.1%
法令義務の範囲内で対策は十分なので必要ない	15.5%	10.0%			15.2%
既存対策で十分なので必要ない	19.0%	10.0%			18.5%
親会社・本社からの要請・指示がない	3.2%	0.0%			3.0%
上長(経営者)からの要請・指示がない	2.6%	5.0%			2.7%
行政からの要請・指示がない	8.9%	10.0%			9.0%
その他	5.7%	5.0%			5.7%

RAを知ったきっかけ	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
行政からの通知			34.2%	44.1%	38.9%
親会社・本社からの通知			15.8%	26.5%	20.8%
同業他社の通知			0.0%	5.9%	2.8%
業種協会・団体等からの通知			15.8%	11.8%	13.9%
上長(経営者)からの通知			7.9%	2.9%	5.6%
リスクアセスメント関連のセミナーへの参加			13.2%	5.9%	9.7%
業界紙・新聞・テレビ等を読んで			5.3%	5.9%	5.6%
インターネットで情報を見て			0.0%	0.0%	0.0%
その他			13.2%	2.9%	8.3%

表 8 リスクアセスメントに関する質問への回答結果 2-3（割合）

RA後の労災減少	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
かなり減った			7.9%	32.4%	19.4%
まあまあ減った			42.1%	29.4%	36.1%
あまり減らなかった			7.9%	17.6%	12.5%
全く減らなかった			5.3%	0.0%	2.8%
分からない			31.6%	20.6%	26.4%
N/A			5.3%	0.0%	2.8%
RA指針	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
指針通りに実施していない			21.1%	14.7%	18.1%
指針通りに実施した			71.1%	85.3%	77.8%
N/A			7.9%	0.0%	4.2%
RA実施理由	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
行政からの要請・指示があった			42.1%	32.4%	37.5%
所属団体からの要請・指示があった			18.4%	2.9%	11.1%
親会社・本社からの要請・指示があった			21.1%	35.3%	27.8%
上長(経営者)からの要請・指示があった			23.7%	8.8%	16.7%
リスクアセスメントが努力義務事項だから			28.9%	26.5%	27.8%
導入により労働災害が減ると思ったから			39.5%	41.2%	40.3%
既存の安全衛生対策だけでは不十分だと思ったから			18.4%	29.4%	23.6%
労働災害が発生していたから			10.5%	8.8%	9.7%
同業他社による好事例があったから			0.0%	5.9%	2.8%
その他			13.2%	0.0%	6.9%
RA実施理由(最大)	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
行政からの要請・指示があった			10.5%	14.7%	12.5%
所属団体からの要請・指示があった			2.6%	0.0%	1.4%
親会社・本社からの要請・指示があった			10.5%	20.6%	15.3%
上長(経営者)からの要請・指示があった			5.3%	0.0%	2.8%
リスクアセスメントが努力義務事項だから			2.6%	11.8%	6.9%
導入により労働災害が減ると思ったから			13.2%	11.8%	12.5%
既存の安全衛生対策だけでは不十分だと思ったから			0.0%	2.9%	1.4%
労働災害が発生していたから			2.6%	0.0%	1.4%
同業他社による好事例があったから			0.0%	0.0%	0.0%
その他			2.6%	0.0%	1.4%
N/A			50.0%	38.2%	44.4%

表 9 リスクアセスメントに関する質問への回答結果 2-4（割合）

RA大変だったこと	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
必要な実施体制の整備・維持			50.0%	50.0%	50.0%
教育研修の実施			39.5%	50.0%	44.4%
リスクアセスメント実施要領の作成			26.3%	35.3%	30.6%
リスクアセスメント対象の選定			13.2%	11.8%	12.5%
リスクアセスメント対象の情報の入手			15.8%	8.8%	12.5%
危険性又は有害性の特定			23.7%	26.5%	25.0%
リスクの見積もり			34.2%	32.4%	33.3%
リスクの優先度の設定(評価)			23.7%	14.7%	19.4%
リスク低減措置の検討			23.7%	35.3%	29.2%
リスク低減措置の実施			23.7%	52.9%	37.5%
記録の作成・保存			10.5%	14.7%	12.5%
予算の獲得・維持			15.8%	20.6%	18.1%
リスクアセスメントの実施にかかる時間の確保			36.8%	29.4%	33.3%
会社組織内での合意			5.3%	11.8%	8.3%
経営トップの理解を得ること			5.3%	5.9%	5.6%
安全衛生スタッフの能力向上			18.4%	20.6%	19.4%
ライン管理監督者の協力を得ること			10.5%	17.6%	13.9%
その他			7.9%	0.0%	4.2%

RA大変だったこと(最大)	RA非実施	RA中止	RA実施	RA実施中	全体
必要な実施体制の整備・維持			13.2%	17.6%	15.3%
教育研修の実施			7.9%	5.9%	6.9%
リスクアセスメント実施要領の作成			5.3%	5.9%	5.6%
リスクアセスメント対象の選定			0.0%	0.0%	0.0%
リスクアセスメント対象の情報の入手			0.0%	0.0%	0.0%
危険性又は有害性の特定			0.0%	2.9%	1.4%
リスクの見積もり			5.3%	2.9%	4.2%
リスクの優先度の設定(評価)			2.6%	0.0%	1.4%
リスク低減措置の検討			5.3%	8.8%	6.9%
リスク低減措置の実施			2.6%	17.6%	9.7%
記録の作成・保存			2.6%	0.0%	1.4%
予算の獲得・維持			0.0%	2.9%	1.4%
リスクアセスメントの実施にかかる時間の確保			13.2%	5.9%	9.7%
会社組織内での合意			0.0%	0.0%	0.0%
経営トップの理解を得ること			0.0%	0.0%	0.0%
安全衛生スタッフの能力向上			7.9%	0.0%	4.2%
ライン管理監督者の協力を得ること			0.0%	5.9%	2.8%
その他			0.0%	0.0%	0.0%
N/A			34.2%	23.5%	29.2%

表 10 リスクアセスメント実施前後およびリスクアセスメント非実施企業の
1社あたり労働災害発生件数

RA実施企業 72社	回答企業数(社)	労災件数(件)	1社あたり労災件数
5年前	69	44	0.638
4年前	71	38	0.535
3年前	72	29	0.403
2年前	72	25	0.347
1年前	72	39	0.542
導入年	72	32	0.444
1年後	70	27	0.386
2年後	60	31	0.517
3年後	45	10	0.222
4年後	37	13	0.351
5年後	32	2	0.063
前5年(1年間)	356	175	0.492
後5年(1年間)	244	83	0.340
前3年(1年間)	216	93	0.431
後3年(1年間)	175	68	0.389

RA非実施企業 368社	回答企業数(社)	労災件数(件)	1時間あたり労災件数※
2006年	342	29	0.085
2007年	345	43	0.125
2008年	345	25	0.072
2009年	350	31	0.089
2010年	356	38	0.107
2011年	356	36	0.101
2012年	360	35	0.097
2013年	358	34	0.095
直近8年(1年間)	2,812	271	0.096
直近5年(1年間)	1,780	174	0.098
直近3年(1年間)	1,074	105	0.098

※1時間あたり労災件数の単位は -10^{-5} 件/時間

表 11 リスクアセスメント実施前後およびリスクアセスメント非実施企業の
1時間あたり労働災害発生件数

RA実施企業 72社	総労働時間数(時間)	労災件数(件)	1時間あたり労災件数※
5年前	12,022,943	44	0.366
4年前	12,004,778	38	0.317
3年前	11,941,047	29	0.243
2年前	11,939,305	25	0.209
1年前	11,951,479	39	0.326
導入年	11,922,013	32	0.268
1年後	11,904,056	27	0.227
2年後	10,911,281	31	0.284
3年後	10,253,667	10	0.098
4年後	10,103,123	13	0.129
5年後	9,564,690	2	0.021
前5年(1年間)	59,859,551	175	0.292
後5年(1年間)	52,736,817	83	0.157
前3年(1年間)	35,831,831	93	0.260
後3年(1年間)	33,069,004	68	0.206

RA非実施企業 368社	総労働時間数(時間)	労災件数(件)	1時間あたり労災件数※
2006年	13,643,250	29	0.213
2007年	13,742,422	43	0.313
2008年	13,510,736	25	0.185
2009年	12,871,592	31	0.241
2010年	14,036,316	38	0.271
2011年	13,912,836	36	0.259
2012年	14,034,670	35	0.249
2013年	13,829,146	34	0.246
直近8年(1年間)	109,580,968	271	0.247
直近5年(1年間)	68,684,560	174	0.253
直近3年(1年間)	41,776,652	105	0.251

※1時間あたり労災件数の単位は 10⁻⁵件/時間

表 12 リスクアセスメント実施前後およびリスクアセスメント非実施企業の労働災害発生件数

1社あたり労災件数				1時間あたり労災件数※			
RA実施企業 72社		RA非実施企業 368社		RA実施企業 72社		RA非実施企業 368社	
5年前	0.638	0.085	2006年	5年前	0.366	0.213	2006年
4年前	0.535	0.125	2007年	4年前	0.317	0.313	2007年
3年前	0.403	0.072	2008年	3年前	0.243	0.185	2008年
2年前	0.347	0.089	2009年	2年前	0.209	0.241	2009年
1年前	0.542	0.107	2010年	1年前	0.326	0.271	2010年
導入年	0.444	0.101	2011年	導入年	0.268	0.259	2011年
1年後	0.386	0.097	2012年	1年後	0.227	0.249	2012年
2年後	0.517	0.095	2013年	2年後	0.284	0.246	2013年
3年後	0.222	-	-	3年後	0.098	-	-
4年後	0.351	-	-	4年後	0.129	-	-
5年後	0.063	-	-	5年後	0.021	-	-
前5年間	2.458	0.771	直近8年間	前5年(1年間)	0.292	0.247	直近8年(1年間)
後5年間	1.701	0.402	直近5年間	後5年(1年間)	0.157	0.253	直近5年(1年間)
前3年間	1.292	0.293	直近3年間	前3年(1年間)	0.260	0.251	直近3年(1年間)
後3年間	1.166	-	-	後3年(1年間)	0.206	-	-

※1時間あたり労災件数の単位は 10⁻⁵件/時間